

京都大学人文科学研究所

高校生のための 夏期セミナー

人文学への招待

歴史に じかに 触れる

【日時】 2019年8月17日(土) 10:30-14:30

【会場】 京都大学人文科学研究所 (本館1階セミナー室1)

【内容】

10:30-11:30 伊藤 順二 (近代ロシア史・准教授)

「歴史をふりかえるということ

～第一次世界大戦をめぐる～」

13:30-14:30 藤井 律之 (中国古代中世史・助教)

「紙の発明がもたらしたもの」

事前申込不要・無料・先着順・保護者同伴可

※開始時刻までに直接会場にお越しください。

※午前のみ・午後のみ参加も可能です。

※当日7:00時点で京都市に暴風警報発令の場合は中止します。

お問合せ：京都大学人文科学研究所 総務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel: 075-753-6904 (平日9:00-17:00)

E-mail: highschool@zinbun.kyoto-u.ac.jp





京都大学人文科学研究所は、今年で創立 90 周年という、伝統ある研究所です。

国立大学にある文系の研究所のなかでも最大級の規模をもち、そこでおこなわれる研究活動も、文学・歴史・哲学・宗教・芸術・考古・民俗・人類・科学など多岐にわたり、対象とする地域も日本や東アジアはもちろん、世界各地のあらゆる地域が含まれています。

この研究所の大きな特色は共同研究にあり、さまざまな分野、さまざまな国の研究者が集まって、活発に議論していくなかで、世界レベルの研究成果も多く生みだしてきました。

セミナーでは、高校生のみなさんを対象として、研究所のスタッフが、最新の研究成果をわかりやすく解説します。とくに今年は「歴史にじかに触れる」というテーマのもとに、実際に資料をみて、さわって、歴史を感じてもらいたいと思います。

暑い夏のひととき、人文研で歴史の真髄にふれてみませんか。

「歴史をふりかえるということ ～第一次世界大戦をめぐる～」

伊藤 順二 (いとう じゅんじ)

第一次世界大戦 (1914～1918 年) から 100 年がたちました。

日本とちがい、ヨーロッパの多くの国では、最初の世界大戦は 2 番目のそれに劣らず「人気の」テーマであり、2014 年には 100 周年を記念して各地で大規模な学会やさまざまなイベントがおこなわれました。同じように、去年、つまり終戦 100 周年である 2018 年は、中東欧地域などのさまざまな国の独立 100 周年でもあり、あちこちで「歴史」が盛り上がりを見せました。

この講義では、歴史がどのように使われてきたのかを、100 年前と最近の 100 周年とをふりかえりつつ考えていきます。

「紙の発明がもたらしたもの」

藤井 律之 (ふじい のりゆき)

昨今、デジタル化が急速に進展し、それとともにペーパーレス化も進んでいます。つまり、何かを書くために紙を使用する時代は終わりを迎えようとしています。

それでは始まりのときはどうだったのでしょうか。

紙が中国で発明されたことは、高校世界史の教科書にも記されていますが、それが社会に普及したのは、中国が古代をおえて中世にむかおうとする時期のことでした。紙の登場によって当時の社会に何がもたらされたのか、そこに生じた変化とあわせて、中国の古代・中世について考えてみたいと思います。